

この記事はKCJ会誌2004年12月号に掲載されたものです。

Megalebias飼育記

メガレピアス属の飼育について 23

今まではほとんど見る事も稀で飼育する機会も少なかった種類でしたが、最近ではKCJの仲間達の努力の御蔭で飼育する機会も増えてきましたので、自分が今まで飼育してみた経験を元を書いてみたいと思います。

以下の飼育方法がベストではありません。あくまでも私個人の方法ですのであしからず。



Megalebias elongates Jeppener 画像 Martin Fourcade氏

過去飼育した種類は*Megalebias elongates*エロンゲータス(飼育回数3回F3まで)・*Megalebias cheradophilus*チェラドフィラス(飼育回数1回採卵まで)・*Megalebias wolterstorffi*ウォーターストロフィー(飼育回数1回F3まで)の3種類です。この中で飼育難度の中間のエロンゲータスの飼育方法を中心に書き、残り2種類は後で付屬的に書きます。

基本は中級の*Austrolebias*属の飼育方法と同じです(*Austrolebias*が飼える人は*Megalebias*も飼えます)

まずは卵の保管から。

我が家では29~32 の高温で約3ヶ月で孵化させます。タイミングは*Austrolebias*属の魚と同じです。

孵化時の注意点。

孵化時の水温は12℃以下、8℃前後まで。20℃以上の水温で孵化させるとスライダーが多くなります。(京都の岡田さんが開発した低温孵化技術の御蔭で中・上級*Austrolebias*のスライダー発生率は格段に抑えることが出来るようになりました)

水に漬けている時間は2日間ほどで稚魚だけ取り出し、残りのピートと卵は再処理し1～2週間後にまた孵化させます。稚魚は大きいのでシュリンプは1～2週間ほどで、すぐに小さめの赤虫が食べれるようになります。成長も早いので出来るだけ早く大きめ(産卵用水槽)の水槽に移してください。

若魚～成魚飼育の注意点

成長が早いため、成長の早い(トビ)が成長の遅れた(ヒネの)稚魚を共食いすることがよくあります。餌を食べれば食べるほど大きくなるので、2～3日トビを隔離しヒネの方にだけ餌をやると成長のバランスがとれます。

オス・メスの性比は極端には偏りませんが、ヒレの大きさはあまり変わらないので性の判断は3～4cmを超え色がつくまでは判別が難しいです。大きくなるメダカですから、飼育水槽は出来るだけ大きいほうがいいです。

沢山の餌を食べ排泄物もデカイウンチをし、豪快にダイブし水を混ぜまくってくれるので、水質の悪化も早いのでM水槽以上が望ましいです。

水槽のセット方法・採卵

私のセットは45cm水槽に1トリオか1ペア(メスの方が大きくオスが小さい)。飼育温度は16℃。水温7～25℃までなら餌を食べてました。水作エイト・ウオータースプライト・ニテラを使用。

産卵用のピンはコーヒーピンの様な広口ピンに、ピートを10cm以上詰めたものを使っています。砂は入れない(砂を入れると砂に潜ろうとして皮膚を傷める事がある)

デカイので豪快にダイブするため、1週間もするとピンの中のピートはほとんどなくなるので、こぼれたピートをゴミとともにホースで吸出しネットで漉してこぼれた卵の採卵もします。ピンは動かさずに減った分のピートを追加する。(ピートはどのような物でも構いませんが、繊維の細かなものを使用時には上に蓋をする様に長毛繊維のピートを詰め込むとピートの撒き散らしが若干少なくなります)

餌について

初めの内はアカムシだけで良いのですが、4～5cmを超えた頃からは小さめの生きた魚をたまには与えて下さい(アカヒレ・ネオン・メダカなど)

水について

水の汚れに割合と敏感です。汚れてくると成魚でも急にスライダーになることがしばしばあり、その上、皮膚も弱く水が悪くなっていると少しの傷が致命傷につながる事が有ります。水替えは多めに！

上に書いた方法でピートを吸い出していれば水槽の水はすぐに半分以下になると思います。気にせず減った分だけ足してください。

足し水について

pHや硬度などのショックよりは汚れの方が被害が大きいので、下手な種水水槽の水を使わず、足し水は量も多いので以下のようにしています。

水道水を(衣装ケースに入れ)2~3日投げ込み式の濾過機でエアレーションし、飼育水の温度に合わせ(±2)出来れば飼育温度より1~2 低めが良いみたいです。この水を減った分だけ足します。(衣装ケースの水は始めの一回目だけ調子のいい水槽の水をコップ一杯だけ入れ、その後はすべて使い切らず少しだけ残し水道水を足す)

採卵について

上記に書いた方法と、産卵ビンからピートを取り上げる事もします。ただしこの場合は1~2ヶ月に一回ぐらいのペースで、この時は掃除をかねて水深5cmぐらいまで水を抜き掃除をします。(すべての種類に使える事ですがヒレをすぼめたり、皮膚が白っぽく濁ったりした時は水替えのタイミングだと思っています)

ピートはネットの中で水が出ないぐらい強く絞り、袋に入れて保管。問題点はやけにピートが多くなり、保管場所や発眼確認がやりにくいので、暇な時には園芸用のフルイ(大・中・小セット)でふるって卵を分けてます。この時の注意ですが飼育水槽に入っていたピートを使わないと、卵が消えたりカビたりすることが良くあります。

維持・分担

以上がエロンゲータスの私なりの飼育方法です。特に難しいことは無いのですが、なにぶん大きくなるので一人で維持して行くのはキツイ！どの種類のメダカにも使える事ですが、長期間累代飼育を一人で維持するのは大変な(仕事や家庭の事情なども有り)ことです。仲間を作り分担飼育するのが種を残すと言うことでは望ましい方法だと思います。増えた時は出来るだけ分散して、多くの方に心地いい苦しみを分けて上げましょう。そして日本にメガレビが定着する日が来る様に頑張るぞーてかっ！(皆さんもよろしくねっ！)

*M. wolterstorffi*の飼育について

エロンゲータスとほとんど同じですが、サイズも一回り小さいので水替えさえ注意しておけばS水槽で飼ってましたが十分に飼えてました。餌もアカムシを中心にやっても産卵数もそこそこ取れるので、少し大きめの水槽で飼育すればより楽だと思います。当時は低温飼育・低温孵化と言う概念が無かったので、飼育温度・孵化温度とも22~25 前後でした。そのためか、4ヶ月ほどしか飼育できずスライダーも半数以上出てました。

*M. cheradophilus*について

上手く行っていないのでなんとも云えないので問題点のみ

- 1、親魚が卵を食べる。
- 2、保管中の卵が消える。
- 3、ベルベットに良くかかる。
- 4、皮膚が弱く炎症を起こしたり白くただれる。

薬について

ベルベットにはマラカイトグリーン、炎症にはアクリフラビン、綿かぶりなどの菌にはメチレンブルーの薬浴で治療しています。どの薬品でもそうですが、直接飼育水槽に入れる場合は1～2週間以内に中に入っているピート・濾過機・水草・砂などを綺麗に洗って再セットしないと、一ヶ月もするとバタバタと死ぬ突然死や、呼吸が速くなり餌を食べずに痩せて死んでいくことが良く有ります。薬との具体的な因果関係は解かりませんが、薬浴と直接入れたときの再セットで今のところは防げてます。

Austrolebias・*Megalebias*の輸送方法について

中級以上の*Austrolebias*と*Megalebias*の成魚の輸送は水を多く入れること。(輸送によるストレスとスレに弱く、立て直すのに時間と手間がかかる)

高温に弱いので夏場の輸送は避ける。夏場の輸送は卵の輸送が一番いい。温度の低いときは発生が進んでなく、透明な卵(採卵後一ヶ月以内)を送る。夏場にしても冬にしても、発生が進んだ(ルーペで見て背骨や目がうっすらでも確認できる)卵を送ると、先方で保管中に消える事が良く有るので、出来るだけ採卵間もない卵を送るか、直接手渡しで渡すとトラブルも少なくなります。

追記

チリ・アルゼンチン・ウルグアイ・ブラジル南部に生息しているメダカは、低温にも強く、日本に帰化する恐れがあるので、くれぐれも卵をはじめ魚の管理は慎重に！(ニグリとアレキは屋外飼育で氷が張っても元気で、やや動きが鈍くなる程度で翌春まで元気で卵を産んでいた)



Megalebias elongates Jeppenerの卵

メガレビアスの飼育と感想 42

1、飼育については今更ながらですが、やはり水の管理が1番のキーワードのようです。底水の舞い上がり、大きな糞、水質が変わらない方が不思議なくらいで、フルサイズからは水替えをマメにすれば飼育は旨く行くはずです。ただスライダーになりやすく、大きくなればなるほど危険性は高くなります。スライダーになると手遅れで、我が家ではスライダーの親からは卵が取れませんでした。

2、メダカの中でフィッシュイーターと呼ばれるこの種は、共食いはもちろん口に入るものは何でも食べますが捕食は上手く有りません。現地では*Austrolebias*を中心に捕食しますので、飼育の簡単なこの種を活餌にすることが望ましいでしょう。ヒメダカや卵胎生のメダカも捕食しますが、卵生メダカに比べ酸素の消費量も多く、水が汚れやすいのでリスクを考えると卵生メダカがお勧めの活餌です。このことは賛否両論の意見が有ると思いますが今のところ最良の飼育方法として記して置きます。

3、*Megalebias*の飼育者は殆どがリピーターです。臆病でなく稚魚のころから愛嬌者で、1度飼育すると忘れることが出来ないメダカとなります。飼育スペースが大きくなるハンディは有りますが、それ以上に愛着が有りますのでこの手は一家に1種。スライダーや雌雄偏りの処分にも是非お勧めです。

4、成魚の飼育がクリアすると最後の難関となる卵の保管です。旨く採卵しても殆どが消えるので、管理が難しいのか受精していないのか解らないのが現状です。海外から導入した卵でも、すべて消えることは珍しくなく、発眼した状態で漬

ける 無言 再乾燥 消えるパターンや、発眼 消滅も良く起こります。

5、飼育方法が確立されていないメダカの中で、*Megalebias*はまだまだ実験と研究が必要な種類です。産卵床の改良、効率の良い換水、卵の管理状態など、必ず増える方法があると考えています。より多くの飼育者が飼育の成果を伝授して頂ければと心より思います。

6、飼育してみて、失敗の原因はごまかしが効かないのと、餌のコントロールを気をつければ難しくは無いと思ってます。南米魚の飼育方法のように、水替えをさぼっても融通が利くほど甘くは有りませんが、しっかり水替えをやって糞の始末をマメに行えば、45cmぐらいの水槽でも十分飼育できます。餌はカロリーの高いものを控え、なるべく虫などのヘルシーな餌を馴染ませれば水の痛みも少なく、魚の調子も良いようです。



Megalebias cheradophilus Ruta 9 Castillos

メガレピ！ 26

このメダカを知らない方達が、初めて目にしたときに言う言葉はきっこうでしょう。フナや！深海魚や！っと。ほんとに色も無い、メダカとは到底思えない魚ですが、一度実際に飼育してみると、稚魚が凄い早さで成長していく！この渋い色合い！餌を食うときのドン臭さ！豪快に潜る！訳が判らず落ちていく(T_T)そんな様子に、知らず知らずのうちに愛着が湧いてくるのはなぜでしょう？それは僕にも良く判りません(^_^)飼育したことの有る方しか判らない不思議な魅力が。もちろん難しい魚を維持・増やしてみたいと思うのは、メダカ好きにとっては自然と湧いてくる欲望だと思います。ただ、こんなデカイ魚達が増えすぎても困ることですが(笑)そんな魅力を持ったメダカ達をみなさんも是非飼育してみてください。きっと

知らないうちに好きになっていくと思います。

これまでの経験

M. elongates 初めて見たメガレビの卵は2mm以上の大きさに驚いた。卵からのスタートで、孵化予定日の採卵から3ヶ月程度の儀式日が待ち遠しい。予定日が近づき、ルーペで確認した後に儀式した。4~5匹程度が浮上。数日後に一匹だけ元気な個体が残っていた。共食いの可能性大。その一匹が雌となり5cmほどまで育ったものの、しばらくして餌を取らなくなり痩せて。ちなみに儀式後のピートから透明な卵が見つかり、再処理して保管したものの消滅。

M. cheradophilus 4cm弱の若魚からスタート。導入初期から雌がコショウに掛かって苦戦。なんとか数個の卵を採卵する。保管して発眼を確認するが、気が付いたら消滅。両親も6cm程度でスライダーになり。雄親は水換え直後に底でピョコピョコ。水換えの失敗のよう。その後に雌親もスライダーになる。これは水換えもしていないのに突然のスライダー。餌の問題かも。

っというわけで、まともに飼育できたことが有りません。今日もまた卵の入った袋を眺めています。消えないように祈りながら(^_^)

文中の名前

エロンゲータス *Megalebias elongates*

チェラドフィラス *Megalebias cheradophilus*

ウォーターストロフィー *Megalebias wolterstorffi*

この飼育記は各自の経験や体験を元にしたもので、必ずしも同じ飼育方法・手法で同様の結果が出るとは限りません。あくまで参考とし、各自の環境・スタイルにて良い飼育方法を探してみてください。